

ひと、
ひらき、

mumomon
welfare

きらめく



「特集」

新しい社会的価値 part3

「むもんビッグニュース」

「種やって水まいて自然栽培パーティ！」

初上映会が豊田市で開催

「教えて！ドクターM」

酸化ストレス

2022

Autumn

無門福祉会広報 vol.149

〔発行〕社会福祉法人無門福祉会

〔発行責任者〕三浦孝司

橋岡

経済優先の今の社会でお金のものさしで人を測ると、差別や孤立を生むし、人の温かさみたいなものは薄れてしまうよね。つながりが薄れてしまうと、孤立していることに関心が持てなかったりして、より差別や偏見が強い社会になってしまい、それは障がい者が幸せに暮らせる社会からはどんどん遠ざかってしまう気がするな。

塚原

地域や社会の課題を解決していかないと、障がい者の置かれる立場が変わらないだけでなく、また新たな問題が生まれてくる可能性もあるから、障がい福祉が地域に目を向けて、率先して地域福祉に取り組みないといけないんだよね。

テーマII 障がい福祉だから出来る地域コミュニティ支援とは？

塚原

SNSとかでネット上で気軽につながれるようになった反面、直接人と人がつながる機能があったものってどんどんなくなってきていて、商店街とか、駄菓子屋とかそういうちょっとした地域のたまり場みたいなものが福祉で出来ると地域の人も安心できるよね。

橋岡

非効率だけどそれを守ることで救われる人がいるのであれば、それこそが福祉が出来ることなんだよね。地域のつながりが無いことに困っていないと思っている人もたくさんいると思うけど、私たちがその価値を発信していく仕事なのかなと感じてる。

星野

ボランティアさんとかを見て感じるの、自然に触れたいとか野菜を作るのって楽しいとか、お金じゃない価値に人が集まって一緒に楽しめるっていうのが発見だと思いました。そういう機会を作ることで障がい者も地域の人と自然に接することができていくと思います。



障がい者支援施設むもん 橋岡



むもんカンパニー青い空 塚原

平良木

農ある暮らしを中心にして、自然を感じながら様々な人と一緒に体を動かすことで一体感が生まれ、自然からいろんなことを学んで暮らしていけると、社会から自然と障がい者がなくなっていくんじゃないかなと思う。活動を続けていく中で地域の人が共感し一緒にやりたいと思える人が増えていくことで、地域にむもんの活動の輪が広がっていくといいなと思います。

昔は小さな地域コミュニティの積み重ねの上で私たちは安心して暮らすことが出来ていたのかもしれませんが。地域という範囲で仲間を作り、楽しみを見つけ喜びを共有することが生きる上ですごく大事な価値だったのでと感じます。現代では自然災害や経済活動の停滞などで生活環境が大きく変わらない限り、あまり地域というものを意識せずに必要の無いものになってきているのかもしれませんが。それはやっぱりお金がひとつの基準になっていて人への信頼よりお金への信頼が強くなっているんだと感じます。

ですが、お金が生まれないものに価値がないと思い排除していくと、実際に問題になっている地域課題が浮かび上がってくるように感じます。

お金ではない価値を見出し、価値を多様化することで誰もが幸せな社会が作られ、その価値の発信の中心に障がい者がいることで、よりたくさんの方が人とのつながりを感じ、豊かな社会になるのではないのでしょうか。

新しい 社会的価値

シリーズ
New Social Values

03



座談会
テーマ

障がい者支援から地域コミュニティ支援へ

近年、様々な地域課題がニュースでも取り上げられています。それは地域というコミュニティ自体が軽視されてきていることの表われのように感じます。

一次産業が衰退し、企業に勤める人が増えたことで働く場所と住む場所が分離してしまい地域に目を向ける機会を失い、いわゆる今の若者世帯の住む地域はベッドタウン化しています。

私たち無門福祉会は地域の休耕地を借りて自然栽培を進めるなかで、農業は地域で利害を共にし、「働く」と「住まう」が一体となった産業であることに気づきました。草を放置すれば景観が崩れるから草刈し、大雨で田んぼの水路が土砂で詰まれば掃除して、みんなでその地域の農業を支えている。農業は職住の利害を共有する共同体だからこそ障がい福祉が地域に溶け込む最善の方法かもしれません。障がい者の窮状を理解してほしいと社会に投げかけ、障がい者を支援する時代から障がい者が地域の課題を解決し、障がい者が地域につながることで地域をつなげていける時代へ。そんなテーマで今回、話してみました。

テーマI 障がい福祉は障がい者だけを支援していいの？

平良木

自然栽培を通して利用者さんの働きがいただけじゃくて、高齢で離農される方の休耕地の問題とか農薬や化学肥料で環境が汚染されていることなど社会にはたくさん課題があることに改めて気づいて、そういうことってどこか他人事という自分ではどうにもできないもののように感じていたけど、すごく身近に感じて福祉の力で何とかしないとイケないって思うようになったよね。

星野

様々な〇〇障がいとか〇〇困窮者という言葉でくられる人が増えていて、みんなが生きづらい社会になってきてしまっている気がします。地域がすでに疲弊してしまっていて余裕がない状態になってしまっているから、まず地域を何とかしないと障がい者も地域の中で楽しく暮らすのは難しいのかなと思います。



むもんカンパニー青い空 平良木



障がい者支援施設むもん 星野

無門福祉会は自然栽培を通して地域の現状や課題を見つけ、今後どういう未来が私たちにとって幸せな社会になるかを考えています。

障がい者だけが生きづらいわけではなく、みんなが生きづらい社会になってしまっていないだろうか。障がい者の自立支援や自然栽培の活動、地域社会の課題に対して日々向き合ってきた無門福祉会が考える「新しい社会的価値」を職員で話し合ってみました。

『種やって水まいて 自然栽培パーティ!』 初上映会が豊田市で開催

全国の福祉施設が、自然栽培で野菜作りを行う模様をリアルに描き出したドキュメンタリー映画「種まいて水やって 自然栽培パーティ!」(田中貴大監督×岩崎靖子監督、トキノツカサ企画)が完成し、2022年10月7日、豊田市で初上映&トークイベントが行われた。

映画の主題となっている自然栽培パーティの取り組みは、2015年の立ち上げから7年で日本中の障害者が農業を通じてやりがいや楽しみを見つけ活躍するきっかけとなる活動になっている。さらに農業も除草剤も肥料も使わない、自然の力を最大限引き出す自然栽培の取り組みが地域のつながりや、食の安全を守る事など拡がりを見せている。



当日は約2000人の来場があり、その世界観に引き寄せられるように会場が一体となって内容に驚き、興味深げに眺め、時に笑い声の起る温かい雰囲気になりました。全国の様々な事業所の農福師や職員、畑にまつわる人物が次々と登場し、収穫のよるこびや笑顔、時には失敗もありながら、くじけず次の種をまく姿。そうした懸命に農作業へ打ち込む日常が描かれている。たくさんの魅力的な、もはやキャラクターとも言える個性豊かな面々が画面に現れるが、明確な主役がいるわけではない。畑や田んぼを巡り、日常的に繰り返されているストーリーの連続であった。



上映後は田中貴大監督、岩崎靖子監督の両監督がステージ上に立ち、舞台挨拶を行う場面があり盛大な拍手が送られた。その後、映画に出演した無門福祉会の農福師、阪田常務理事、職員や自然栽培パーティから機部理事、みどりの里の野中慎吾さん、豊田市役所の加藤さんが登壇し畑で繰り返し広がっている日常に関するエピソードを披露された。

この映画は自主上映という形態でイベント的に上映が行われる。国内での開催はもとより、今回の上映後にはフランスパリでも開催が決まる驚きの発表があった。福祉施設だけではなく、野菜や米を作るプロセスにも興味・関心が芽生えたり、畑や田んぼに触れたいと思う人々が増えることを予感させる作品であった。

今後の上映予定のお問い合わせは
トキノツカサ企画まで

TEL 080-8010-4669
(受付時間:平日10:00~17:00)
MAIL tokinotukasakikaku@gmail.com



ムモンガ

無門の裏山に生息する
ムモンガの妖精。
自然栽培で作った
野菜や果物が大好き物。

ドクターM

この道30年の
自然栽培博士。
トレードマークは頭のM。

今回のテーマ

「酸化ストレス」

様々な病気の原因として挙げられる酸化ストレス。鉄が酸化すると錆びることから体の錆びとも言われています。そんな酸化ストレスを減らすためにはどうしたらいいかドクターMに教えてもらいます。



酸化って聞くと金属とか食べ物イメージだけど人も酸化するの？



人は呼吸によって取り入れた酸素を活用してエネルギーを作っておるんじやが、そのうちの数パーセントは活性酸素に変わり自分自身を酸化させようとする力が働くんじや。活性酸素は免疫機能を維持するために必要な反面、増えすぎると体がダメージを受けてしまい、老化の原因になると言われておる。それがいわゆる「酸化ストレス」というものなんじや。



なんで活性酸素が増えすぎるの？



現代は様々な要因で活性酸素が増える条件が整ってきてしまっていて想像以上に体が酸化した状態になりかねんのじやな。

酸化要因

強い紫外線
喫煙、過度な飲酒
激しい運動や運動不足
ストレス
偏った食事

抗酸化機能を高める習慣

日焼け対策
禁煙、適度な飲酒
適度な運動
十分な睡眠
バランスのよい食事

酸化ストレスに対して有効なのが活性酸素を必要以上に作らないことと自分自身の抗酸化力を高めることなんじや。免疫力を高めるのと同じように適度な運動やバランスの良い食事、十分な睡眠が健康には大事なことが改めてあかるのう。






また、とある研究機関の調査によると自然栽培の野菜は慣行栽培の野菜に比べて抗酸化物質が多く含まれていると言われているため、そういった野菜を意識的に摂ることも大切じやの。



忙しいと運動する機会やゆっくりと食事したり睡眠をとる時間を確保することは難しいけど、病気を予防するためにも意識していきたいね。

MY 行動宣言

生物多様性を守るために
私たちにできる5つのアクション!

- Act 1  地元でとれたものを食べ、旬のものを**味わいます**。
- Act 2  自然の中へ出かけ、動物園、水族館や植物園などを訪ね、自然や生きものに**ふれます**。
- Act 3  自然の素晴らしさや季節の移ろいを感じて、写真や絵、文章などで**伝えます**。
- Act 4  生き物や自然、人や文化との「つながり」を守るため、地域や全国の活動に**参加します**。
- Act 5  エコラベルなどが付いた環境に優しい商品を選んで**買います**。

つなげよう、 支えよう 森里川海

無門福祉会は環境省の森里川海プロジェクトに賛同しています。このプロジェクトは国民全体で「森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すこと」「一人一人が、森里川海の恵みを支える社会をつくること」を目指しています。このコーナーでは MY 行動宣言に沿って、地元の旬の味覚や素晴らしい自然をお届けします。



可知 綾

- むもんカンパニー所属
- 勤続13年

私の家の近くには、名古屋市に現存する公園のうち最も古い歴史を持つ中村公園があります。豊国神社と併設しており、古き良き建物も沢山残っています。豊臣秀吉や加藤清正の出生地として知られ、大正天皇が手植えされた松も立派に残っています。自然がとても豊かで子どもを遊ばせるにも最適な場所です。公園の近くには一本30円で買えるお団子屋さんや、一本60円で買える串カツ屋さんがあります。それを買って公園で食べるのが私の楽しみの一つでもあります。また、毎月9のつく日は九の市と言って、屋台などのお店が参道に沢山並びます。何度も市に通っているうちに、顔見知りになった地元の方々との会話も弾みます。

知っているようで知らない自分が住んでる地域の事、歴史や文化を知る事で、その地を好きになり、大切にしようという気持ちがより強くなります。団子屋さんや私、地域の方と私、公園と私。色々な繋がりをこれからも大切にしていきたいです。



近藤 貴裕

- 事務局所属
- 勤続10年

気候が少し肌寒くなってきた頃から自宅の庭の草木が色づき始め、秋を感じられるようになってきました。この庭は祖母が四季折々の植物を植栽し、どのシーズンでも楽しめるようにという想いで作った庭で、とくに今はイロハモミジが紅葉しまさに見ごろの時期です。このイロハモミジの木は祖母のお気に入りの一つで、花瓶に生けていたのを思い出します。生花にすると紅色が一段と際立ち、家の中に秋が広がるとも綺麗でした。室内に居ながらも季節を感じることが出来て、ふと見た時に少し心が落ち着きます。また、今の季節はドウダンツツジの葉が夏の緑色から黄色、赤色にグラデーションになって紅葉し、季節の移ろいに毎日違う葉の表情が伺えます。慌ただしく過ぎる日々の中でもあっという間に過ぎる秋の移ろいに気を留めて祖母の庭を大切に守ってまいります。



農で広がる 福祉の輪

いっしょが たのしい

Part
02

農業生産法人 みどりの里 | 野中慎吾さん

野中さんの畑からはじまる あたらしい農福連携のかたち

「大変なことを引き受けてしまったな」畑に来たむもんのスタッフに対する、率直な野中さんの第一印象。野中さんにとって、むもんと連携は新たな発見の連続でした。本来、仕事はノルマを達成することで賃金を得るもの。しかし、安定的な作業量が保障できないことから、いっそのことお金じゃくて「モノ」でやってみませんか。そんな話から「物々交換」の仕組みが始まりました。栽培する中で出る農産物をもらい、むもんの施設で加工品に。またむもんにはない大型機械を借りたり、栽培スキルが身についたらいちごハウス一棟をむもんの管理にしたり。お互い気負わずにじっくりくる、新しい農福連携のかたちからはじまりました。



助け合うことをモットーに成り立つ野中さんとむもんの関係。みどりの里のいちごハウスのビニールが強風で飛びそうになったらむもんの仲間が駆けつけて、むもんの稲刈りが間に合わないとなれば野中さんが大きなコンバインで駆けつける。そんなふうにお互いに頼り頼られながら、いっしょになって農業に取り組んでいます。いまではむもんのメンバーに家族のような信頼を寄せ、なくてはならない存在だと野中さんは話します。

家族のような信頼感
お互いにとって心地いい場に

こころ 耕Life 掲載記事

豊田市を中心に15,000部発行・配布されているフリーペーパー「耕Life」に当記事が掲載されました。より多くの方々に「むもん」の活動を知っていただけることを願っております。



MUMON Work Friends!

とあさ村祭り

History

ヒストリー

はじめは、とあさ村で野菜を購入していた方が「ここで楽しいイベントをやるよ!」と始めたのがきっかけで、最初はお惣菜等の販売や芝生でヨガなど、小規模のお祭りからスタートしたそうです。震災を乗り越え開催していましたが、ここ数年はコロナ禍でなかなか開催ができず、今回2年ぶりに開催しました。今年は、地域の福祉事業所や早稲田大学人間科学部の学生も参加し、今までにない賑やかなとあさ村祭りになりました。

— むもんに縁のあるお店や団体を紹介します —

むもんの

縁

自然栽培パーティの仲間で、北海道で知的障がいと自閉症のある息子とその母親の二人で運営している農場で、「みんなの畑」という貸し農園を運営されています。今季初めて無門が畑を借りて野菜を栽培したり職員研修に活用している縁でお声かけ頂きました。

Concept

マルシェの紹介

SNSやHPを見て興味を持って頂いている方や地域の方など、祭りを機会にとあさ村に足を運んでもらって知ってもらう機会を作りたいとは



じまったマルシェです。自然栽培の野菜や農福連携の取り組みを通じて、食の安全性、環境問題について少しでも考えていただけたら嬉しいです。色々な人がそこで繋がり、大きな縁や輪になって共に成長できたらいいなと考えているそうです。

貸し農園だより

9月初旬にむもんの利用者と保護者の方数名がむもん北海道農場に訪れ農業体験を行い、畑で栽培したジャガイモの収穫を行いました。収穫したジャガイモをその場で茹でてみんなで食べました。雄大な北海道の地で食べる採れたてのジャガイモは最高でした!!今回のとあさ村祭りでは無門福祉会のジャガイモを販売し、色々な方が手に取ってくれました。



Event info!

とあさ村祭り

来年も開催予定!無門福祉会も参加します。

住 所 北海道勇払郡安平町遠浅721-21
アクセス 新千歳空港から20分、札幌から1時間程
H P <https://toasamura.com/>



とあさ村Facebook

編集後記

子どもの頃、町内自治区の子ども会では近所の大人に教わりながら春祭りの太鼓を練習したりしていました。同じ地域に住んでいる多くの人々が、自然と関わり合うネットワークがありました。現代はコロナによる影響もあるのかもしれませんが、そうした昔の風習はなくなりつつあるように感じます。より安心して暮らせる地域にしていくためには、社会福祉法人が担う役割の度合いも年々大きくなっているように感じます。(平良木)

無門福祉会

〒470-0376 豊田市高町東山7-43 TEL: 0565-45-7883 FAX: 0565-45-7886
E-mail: info@mumon-fukushi.net Web: <http://mumon-fukushi.net/>